

道博協ニュース

第25号

発行所 平成元年1月31日
北海道博物館協会
事務所 札幌市白石区厚別町小野幌
北海道開拓記念館内
電話 011-(898)-0456

第二十八回全道博物館大会 七月五日・六日

帯広で開催—大会テーマは「生涯学習 における博物館の役割」に決定—

去る十一月十七日、六十三年度の第二回役員会が、渡辺会長ほか十五名の役員出席のもとに札幌市のスノー会館で開かれ、来年度、帯広市で開催予定の第二十八回北海道博物館大会について、基本方針を協議しました。開催時期は、帯広百年記念館、日博協事務局等と協議の結果、七月五(水)・六(木)の両日に決定し、大会テーマは、「生涯学習における博物館の役割(仮称)となりましたが、これは、昨年七月に、それまで文部省の博物館関係の担当局であった社会教育局が、生涯学習局と改称されたのを機に、秋の全国博物館大会(十一月十、十一日、於宇都宮)のテーマも「生涯学習と博物館」として開催されたことに継続するものです。つまり、この課題を本道の博物館・園に再度あてはめて、

さらに発展させてみることになつたわけですが、もつとも、役員会においては、現段階では生涯教育の中に博物館を位置づけることの、むずかしさがあるのでは、との意見もありましたが、各館・園に共通したテーマでもあり、相互に課題に接近できるのではないかと、ということで見解の一致をみた次第です。

ぶことが重要になつてきていることの三点を指摘してあります。いずれにしても、生涯教育の中ではたず博物館、美術館、動植物園、水族館の役割は、今後、益々重要なものになると思われまします。また、その中核となることを期待されていられるともいえるわけです。

昭和三十九年度
日本博物館協会顕彰者
日博協顕彰規程に基づき、次の方々が顕彰されました。お祝いをのべるとともに今後のご活躍をお祈りします。
(規程一号)

昭和六十三年度

日本博物館協会顕彰者

奥岡茂雄(北海道近代美術館)
鈴木正實(同)
門崎允昭(北海道開拓記念館)
山田健(同)
亀谷隆(同)

館)

鈴木正實(同)

門崎允昭(北海道開拓記念館)

山田健(同)

亀谷隆(同)

館)

ちなみに、先の宇都宮大会において基調講演をされた、文部省の生涯学習局沖吉和祐社会教育課長によれば、今日生涯教育が重視されてきている背景には①これまでの知識を中心とした学校教育偏重への見直し、②週休二日制、さらには高齢化社会に向けて、何時でも、何処でも学べる機会への対応、そして③複雑な現代社会では、繰り返し、学

に討議を深められその結果をもち寄つて実りある大会にしたいものと考えておりますので、大会の進め方など忌憚らないご意見を早めに事務局にお寄せいただければ幸いです。なお、次回の帯広大会は、隔年ごとに行なわれております役員改選の年次でもあります。総会、講演会、分科会またはシンポジウムの形態など大会の詳細が決り次第、ニュースな

昭和六十三年度学芸職員研修会を終えて

昭和63年度の北海道博物館協会学芸職員研修会は10月14日・15日の2日間、紅葉の中、初雪の舞う夕張市のホテルシユトパロ、石炭博物館を会場に「観光と博物館」をテーマとして開催された。

6月の函館での学芸職員部会総会で開催地夕張の承認を受けた後、部会の野村会長、佐藤副会長、金盛事務局局長ら三役と何度か打ち合せを行ない研修の内容、テーマ等の決定の準備を進める傍ら昨年度開催地の小樽市博物館から受入れポイントのアドバイスなどを得た。9月に入ってからは空知地区での初の研修会でもあることから近隣の市町村の資料施設にも参加を呼びかけ、最終的には32団体、47名の参加を得ることとなった。山間地にある夕張という地域での開催であるので足の便や宿泊などで参加者との連絡に多少不安な点はあったが当館としても初めての研修受入れということもあり、季節柄と

に「暖かく」迎えることを念頭に置き準備にあたった。

研修会のテーマタイトルとしては「観光型博物館の建設と運営」と決め、難解、意味不



準備などで出遅れ気味ではあったが開会前日迄に一応の受入れ体制を整えることができた。この日は又、この時期としては思いがけず早い初雪に見舞われ、峠道に不通箇所もあるとのニュースでいらぬ心配もしてみたが、研修会初日会場となったホテルシユトパロでの開会式迄には参加申し込みのあった、ほぼ全員の顔を見ることができた。開会式では関道博協事務局長、野村学芸職員部会長、夕張市を代表して千葉教育長よりそれぞれご挨拶をいただいた後、事務局からのオリエンテーションが行なわれ2日間の研修日程などの案内を受けた。

明のところはあったが言わんとするところは「観光」と「博物館」とややも近似点がありながら二天を頂かずの感がある現状に対して地元夕張や他市町村の実情、国内の観光・博物館動(傾)向などから前向きにアプローチを試みるという

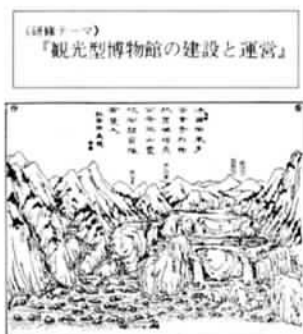
ことで講師もその内容に沿ってお願いすることとした。若干建設まで」と題し、夕張の

産業転換としての観光開発プロジェクトの事例と博物館建設までの推移について石炭の歴史村副社長の鎌田一衛氏より報告があり、研究協議Ⅱでは「運営形態にみる博物館の展示設計の傾向及び評価」と題して丹青社デザインセンター、ゼネラルディレクター、武田臣玄氏より欧米の博物館の展示、運営事例、展示設計の傾向、博物館の評価などについての発表があった。

最後の研究協議Ⅲでは乃村工芸社文化施設事業部のブラニンングディレクター、大山忠史氏より「観光・レジャー動向と博物館」と題した、今日の余暇拡大と価値観の変化に伴う文化施設、観光、リゾートの動向、設計、演出計画などのポイントをスライドを

使った事例紹介を織りませ発表していただいた。研究協議の合い間には昼食後、今年オープンしたばかりの夕張市美術館の見学と郷土画家、島山哲雄氏の「夕張の炭鉱文化と美術」についてのギャラリイ講演を美術館側の協力で用意していただいた。北網圏北見文化センターの実践発表、7月の函館に続く学芸職員部会総会と矢継ぎ早に研修日程を消化し、研究協議の最終総括討議では予定時間いっぱいを使って地域の実践を踏まえた学芸職員研修会ならではの熱の籠った討議が講師を交えて行なわれた。極めてハードなスケジュールとなった研修初日も無事に終了し、その夜の交流会は一日の緊張をほぐすかのように和やかな

昭和63年度 北海道博物館協会 学芸職員研修会



夕張川上流カムイコタン図

主催 北海道博物館協会
主管 北海道博物館協会学芸職員部会
会場 夕張石炭の歴史村 ホテルシユトパロ
夕張市石炭博物館
期日 昭和63年10月14日・15日

団らんとした。研修2日目は石炭博物館と石炭の歴史村を会場に野村部会長のサハリ

網走管内博物館 連絡協議会研修会開催

網走管内博物館連絡協議会の昭和六十三年年度研修会が、昭和六十三年十一月一日・二日の二日間、北見市北網走北見文化センターで開催された。この協議会は、網走管内に設置されている二十一の博物館及び相当施設などが加盟して情報交換や連絡提携、研修等の活動を行っている。

六十三年度研修会のテーマは、「生涯教育の観点から、博物館の地域的要求への対応」

という事で、二十数名の参加者により討議が進められた。

最初に、東京の科学技術館学芸員水嶋英治氏が、長期滞在の経験を元にした「ヨーロッパにおける博物館活動」について講演。

一九八六年三月二四日、バリの北東部に一つの新しい博物館が開館した。そこは「ラビレット(科学産業都市)」と呼ばれ

町立博物館へ研修会のバトンを渡すことのできた満足感は大なるものがあつた。(夕張市

石炭博物館 青木隆夫)

月を経て完成したものである。博物館を名乗らなかつたことに、新しい博物館を目ざす姿勢が伺えるが、教育的意図を興業主義(スベクタクル)という

オブラートで包むというコンセプトで経営されている。

入館者増を図るには、積極的な広報宣伝と特別展にある

という基本方針で、雑誌・新聞テレビ、ラジオ、その他の宣伝活動の順で効果を上げている。

特別展は入館者誘致の最大の武器とされ、七つのチームが四年先まで決まっている特

展の準備を行っている。コレクションも活動の基本

の一つという考え方で、一般書籍十萬冊(最終三十萬冊)、

文庫、関連古書十三萬冊の他、フィルム、ビデオ、CD、ソフト

ウェアなど数千本が備えられている、一般公開されている。

述べ四萬平方メートルの展示で問題なのは、故障なく動かすことである。

法を確立すること。③世界に二つとないものにする。などが、館活動を成功させる鍵であると結んだ。

次に、加盟各博物館の活動状況について報告がなされた。どの博物館も、少ない学芸員(学

芸員のいない館もある。)や少ない予算の中で様々な工夫された活動を行って居り、除々に

地域の中に定着して行く様子が伺えた。農業情報を主とした

データサービス。本州との子どもの交流。ふるさと学習。友の

会の活動。資料のカード化、マイクロー化など、それぞれの館や地

域の特性を生かした地味な、しかし着実な活動ぶりであった。

今後の問題としては、広報のネットワークが確認され、

活動の相互協力も約束された。二日目の最初は、網走市立博

物館立脇信雄館長の「サハリンの博物館について」で、十月三日からは一週間のサハリン

中村学芸部長が「博物館の広報活動」について講演。

経験上から、テレビ、新聞の効用が大きく特にテレビは

最強の武器であること。一方、博物館側のきめ細かな日常の

告知活動も大切で、スミソニアンの様々、近くのホテルや

病院まで紹介する気配り。飛騨高山やハワイのポリネシア

センターでの無料案内書の街頭スタンドの設置。あわせて、博物館で何が出来るか

という、各種の利用手引書作成の必要性などが話され、博物

館を評価する際に、入館者数のみを用いることは間違いで、

例えば資料の利用度とか、研究の為に学芸員を訪れるなどの

展示観覧以外の利用についても評価の対象とすべきという見解が述べられた。

本年度から、生涯教育が生涯学習としてその概念を変え博物館の社会的立場が重要視されるべき時に、短時間ではあつたが、具体的に示唆に富んだ研修会であつた。

館園紹介

幕別町ふるさと館

幕別町ふるさと館は、開拓期から伝わる貴重な資料を永久に保存し、幕別の歴史を後世に伝えるとともに、わが町の自然科学や未来の姿を展望できる総合博物館的施設として昭和五十四年十月に開館した。館の建設に関しては、幕別町温泉敷地内にあったボーリング場が閉鎖されその再利用の計画にはじまる。当初、温泉経営と連動させたトレーニングセンターなどの構想もあ



ったが、多くの住民の要望で自然とそこに生きる人間のかわりあい学習することを目指したふるさと館の建設が進められることになったのである。

ふるさと館は、ボーリング場を一億三千七百五十万円かけて改築した建物で、常設展示場約七〇〇平方メートル、特別展示スペース約一〇〇平方メートル、体験室約七〇平方メートル、収蔵庫約一一〇平方メートル等をもつ延面積約一、八一二平方メートルの社会教育施設である。

常設展示は(一)ようこそふるさと館へ、(二)私たちの幕別町(三)目で見る町のあゆみ、(四)十勝とともに、(五)幕別の自然を学ぼう、(六)みんなの広場、(七)明日の幕別町の七つのスペースに分けられており、幕別町の歴史や文化に関する資料が展示されている。

とくに、十勝川に生きる淡水魚の水漕や開こん当時の生活を再現した開拓パノラマは展示の中心となっている。さらに来館者の目をひくのが



復元家屋の「きまり小屋」であらう。これは大正六年(一九一七)に晩成社差別農場の小作人小屋として建てられたものである。開拓地の大木を切り倒し、木挽き材をつくり間口三間、奥行二間の葺ぶき小屋が作られた。当時建てられた数は十数戸で入口にはむしろをかけ、イロリの火だけ十勝の寒さをしのぐといつた開拓期の生活を物語る貴重な資料である。

このような常設展示を関連させ種々の行事や催事を実施しているのがふるさと館の大

きな特徴である。

例えばジャンボ水漕でのサケの産卵、ふ化、飼育、放流、きまり小屋での年越し、サバイバルスクールでの草小屋、五右衛門風呂の体験、豆腐づくりなど活発な活動を続けている。

昭和六十四年十月には開館十周年を迎えたが、開館以来実施してきた主な事業をあげるとつぎのようなものである。

- 55・5 第三回特別展示(春の百科)
- 55・8 サバイバルスクール
- 55・11 第四回特別展示(産業の夜明け)
- 56・8 サバイバルスクール
- 56・9 第五回特別展示(戦争と暮し)
- 57・1 第六回特別展示(アイヌのくらし)
- 57・5 歴史散歩
- 57・10 第七回特別展示(幕別昭和史)
- 58・8 十勝川トレッキング
- 59・3 雑学講座

61・3 フィールドガイド「ふるさとの花」発行

63・2 糸紡ぎ講習、植物染色

これらの事業は、開館以来、ふるさと館を支えてきたボランティアによる事業委員の努力によって実施したものが多く、この意味でいっても町民の生涯教育の場を目ざすものであるといえる。

▲幕別町ふるさと館案内▼

所在地・中川郡幕別町字依田 三八四番地三

電話番号・〇一五五五一六一 三二一七

開館時間・午前九時四十五分～午後六時

休館日・毎週火曜日及び年末年始(十二月三十日～一月五日)

入館料金・大人、大学生、高校生二〇〇円(一六〇円)中学生一〇〇円(八〇円)小学生一〇〇円(八〇円)カッコ内団体料金

交通機関・JR帯広駅から十勝バス江陵高校行き幕別温泉下車、料金三四〇円。JR根室本線札内駅下車、徒歩三十分、タクシー五分。

館園動向

◆栗山町開拓記念館開館

昭和63年9月に夕張郡栗山町角田に開館しました。明治3年に、旧仙台藩角田領から室蘭に移住した泉麟太郎等が、明治21年、さらに、そこから現在の角田に入植したのを栗山町の開基とし、その開基百年を記念して建設されたのがこの館です。展示は「夕張川の流れと雄大な大地」「アノロ原野の移住と開墾の労苦」「開拓ジオラマ」発展した産業と栗山の町「限りなく躍動する自然・人・町」などのコーナー



で構成されています。

総工費約二・六億円、鉄筋コンクリート造平屋建、建築面積七二五㎡、常設展示室三九八㎡、特別展示室一〇〇㎡、収蔵七九㎡、開館時間10時～16時、休館日月曜・国民の祝日の翌日・年末年始、入館無料、電話〇一三三七―二一六〇三五。なお、隣に泉記念館があります。

◆厚岸町海事記念館開館

本紙第23号で紹介しました本館は昭和63年10月に開館しました。

総工費四・九億円余、鉄筋コンクリート造二階建、建築面積一、四九三㎡、展示室等は海



事常設展示五二六㎡、科学常設展示二〇二㎡、プラネタリウム(ドーム直径)10m・85席、絵画展示室及び絵画学習室七八㎡。開館時間・月曜日9時30分～11時30分、水曜日～日曜日9時30分～16時30分、休館日・月曜日午後、火曜日、祝日の翌日、12月31日～1月5日、入館無料、電話〇一五三―五二一四〇四。

◆ヴェネツィア美術館開館

昭和63年12月に小樽市堺町に開館しました。ガラス工芸で有名な小樽市の北一硝子(社長長浅原健蔵氏)が12億円をかけ、イタリア・ヴェネツィアの宮殿を模して建てた鉄筋コンクリート造五階建の美術館で、建築面積は二七〇〇㎡。一階はヴェネツィアン・ガラ



スショップ、二・三階が美術館で、中世から現代に至るヴェネツィアのガラス工芸品が展示され、一・二階のゴンドラも注目されています。開館時間10時～18時、休館日一月一日のみ、入館料大人五〇〇円・中高生四〇〇円、小学生三〇〇円、電話番号〇一三四―三三三―一七一七。

◆北海道青少年科学館連絡協議会「25年のあゆみ」発行

本書は昭和38年に発足した同協議会の二十五周年記念誌で、昭和63年10月に発刊されました。主な内容は、道内青少年科学館施設の概要、道内青少年科学館発足の経緯、同科学館25年のあゆみ、各館職員のおもいで、協議会加盟館の紹介、相当施設の紹介、各館の特色と今後の展望、協議会発足の経緯と25年のあゆみ、各館の歴史、表彰者一覧などです。道内の関係施設の歴史・現状・今後の展望がよくまとめられています。B5判・83頁で、各館のカラー写真も載せています。

◆斜里町立知床博物館開館 10周年記念シンポジウム

このシンポジウムは、生涯教育における地方博物館の役割をテーマに、昭和63年12月14日斜里町中央公民館で開催され、道博協も後援団体に加わりました。開拓記念館中村齋氏の基調講演の後、金盛典氏が知床博物館の活動について報告し、さらに、小樽市博の土屋周三、北見市教委の平井正史、斜里小学校長村上正好、斜里町郷土研究連盟の高桑華夷次の諸氏が、それぞれ「地方博物館の目指すもの」「生涯教育と地方博物館」「学校教育と博物館」「斜里町民と博物館」と題して提言を行ない、開拓記念館(道博協事務局)局長・関秀志の司会で質問、討議がなされました。

明年度の全道博物館大会のテーマと偶然同じテーマですが、地域に密着しながらも、広い視野で館活動を展開しつつある知床博物館の意欲が感じられるシンポジウムでした。

◆炭礦と鉄道館開館

約半世紀にわたり、阿寒町の発展を支えた旧雄別炭礦と旧雄別鉄道の歩みを後世に伝えるとともに、ふるさとを思う心を育て高めるために阿寒町上阿寒の阿寒自然休養村の中に建設され、昭和63年6月にオープンしました。館は、歴史の波に立ち向った制別の人々の雄々しさと、鶴のようにだれからも愛されることを願って「雄鶴駅」と名付けられています。

建物は木造平屋建てで、中央に時計塔がそびえるヨーロッパ風の駅舎を思わせます。展示場は二〇〇㎡で、雄別鉄道のあらまし、雄別鉄道で使われた道具、雄鉄バス、冬の雄別炭山駅待合室、ビデオ(雄別・点と線の軌跡)、石炭ができるまで、保安の道具、友子制度、採炭の道具、炭礦跡地の自然などのコーナーで構成されています。

開館時間は9時～17時、冬期間(11月～4月)は休館で料金は無料です。電話〇一五四一六六一二八五七

事務局日誌

(昭和63年)

- 8・24～25 第24回北海道青少年科学館職員研修会開催(於帯広市)
- 9・1 「道博協ニュース」第24号発刊(10日発送)
- 9・6 北網圏北見文化センター館長大原利夫氏・前館長平井正史氏来訪(道博協理事交代あいさつ)
- 9・22 昭和64年度北海道博物館大会開催につき現地協議・協力依頼(帯広百年記念館・帯広市教育委員会)
- 9・28 アイヌ文化財専門職員等研修会実行委員会開催
- 10・6 昭和63年度日博協顕彰者確定通知
- 10・13 アイヌ文化財専門職員等研修会実行委員会開催
- 10・14～15 道博協学芸職員部会研修会(於夕張市、参加47名)
- 10・20 昭和64年度北海道博物館大会補助金交付申請書類提出(道教育長宛)
- 10・27 アイヌ文化財専門職員等研修委託事業実績報告

書提出(道教育長)

10・31 第27回北海道博物館大会報告書(北海道博物館協会報告No.29)発刊

11・1～2 網博協研修会開催(於北網圏北見文化センター、中村理事講師として出席)

11・17 道博協第二回役員会開催(於札幌市・スノー会館、役員16名、事務局4名出席)

11・24 事務局会議開催(諸事業の執行について)

12・4 夕張市美術館に入会関係資料発送

1・10 北海道新聞社記者宇野氏来訪(道内の私立博物館について取材)

1・10 日博協指導者研究協議会(道博協共催)現地視察につき関係館に協力依頼(第24号の補遺)

6・30～7・1 動物園・水族館関係職員研修会開催(於旭川市)

7・11 昭和63年度第1回役員会開催(於函館市、役員17名、事務局4名、オブザ

1パー5名出席)

7・12～13 第27回北海道博物館大会開催(於函館市、約一五〇名参加)

寄贈図書

◇釧路市立博物館館報・三〇一～三二二号◇北海道青少年科学館連絡協議会 二十五年のあゆみ(63・10)◇白老町屋根のない博物館基本計画書(63・11)◇アンモナイト化石写真集・三笠市立博物館◇昭和六十二年度 アイヌ民族文化財学芸職員等研修会「アイヌ文化セミナー」講義録・社団法人北海道ウタリ協会

◆異動

昭和六十三年十二月三十一日付をもって財団法人札幌彫刻美術館館長原修氏が退任され、昭和六十四年一月一日付で同財団常務理事児玉映一氏が館長代行となりました。

【編集後記】

道博協ニュース第二十五号をおとどけます。昭和六十四年一月上旬の発行を予定していましたが諸々の事情で約一と月遅れてしまいました。

この間に年号は昭和から平成に変わり平成元年はじめての仕事となりました。各方面で新年度の事業計画が策定されておりありますが、時代の変化を実感として味わっている方も多々あります。時代に則した博物館運営を考えなければ

多々あります。時代に則した博物館運営を考えなければと思っております。

(後援)

NHK 海のシルクロード「古代シリア文明展」

期日 平成元年五月二十七日(土)～七月二日(日)

場所 札幌市中央区南二条東六丁目 札幌市民ギャラリー